

巻頭言

2021年度、2022年度、2年間の年報をお届けします。

2020年2月に感染拡大が始まった新型コロナウイルス感染症は、予想以上に長期にわたりその影響を日々の生活にもたらすものとなりました。この2年間はその影響下で、いかに本来の教育を実現できるか、感染拡大の傾向を勘案しつつ、生徒・学生・教職員、保護者の方々と共に、もっともよいあり方を模索し、試行錯誤を重ねる日々でした。またこの状況下で、自由学園は創立100周年という大きな節目の年を迎え、2024年の「共生共学」化に向けた学校改革を推進しました。

2021年、自由学園は創立100周年を迎えました。大規模な記念式典等は中止となりましたが、4月15日に「自由学園創立100周年記念礼拝」を自由学園と明日館講堂で行えたことは嬉しいことでした。また4月には『本物をまなぶ学校 自由学園』を、12月には『自由学園一〇〇年史』を出版し、併せてデジタルアーカイブ「自由学園100年+」を開設することができました。未来に向けて学校の歩みを支える土台を生み出すことができたことは大きな喜びです。年史編纂にあたっては20年に渡り多くの方々に実に献身的なご尽力をいただきました。関わってくださったすべての方々に感謝を申し上げます。

教育実践においては、学校改革指針「キリスト教精神を土台に一人ひとりを大切にし続ける学園／生徒も教師も自ら学び続ける人が育ち続ける学園／よい社会を創る人が育ち続ける学園」と「共生共学」の推進に全校で取り組みました。

生活団では子どもたちの主体性の土台となる遊びを大切に、クリスマスには降誕劇を上演。初等部では、主体性を大切に学ぶをさらに進め、2021年度の「学びの発表会」を行いました。また本物に触れ、協働性を学ぶ機会ともなる校外学習も段階的に再開しました。キリスト教を学ぶ教師対象の研修会も行うことができました。

中高では2021年度に学校改革指針を推進する新しいカリキュラム「TLP」「探求」「共生学」が始まりました。「TLP」は学園の土台となる建学の精神とその根底にあるキリスト教・聖書を、6年間を通じて学ぶもの。探求は各人の興味関心を深く掘り下げ、共生学では「平和・人権・環境」をテーマに、異年齢で教科横断的な学びを展開。その実践として社会に働きかけるプロジェクト「飛び級社会人」を実施しました。生徒も参加し校舎改築を進めることができたことはうれしいことでした。

最高学部では産学連携による高精度の気象観測システム導入に伴い、有志による主体的な取り組みとして「水文・気象観測室」が発足。学内外で活発に活動を開始しました。2022年度には高等科「探求」に端を発した「環境再生型有機農法」と『川田文子さんのこと』の2つの取り組みが学部で更に進化し、探求から研究への学びのモデルとしてよい成果を生み出しました。

2020年以来3年間、世界を襲った感染症拡大というこれまで経験したことのない、困難で制限の多い生活の中、自治と友愛の精神をもってこの生活を守り続けた児童・生徒・学生の皆さん、日々の生活の安心と生徒の健康確保に心を砕きつつ、自由学園の教育の更なる進化に使命感をもって取り組んだ教職員の皆さん、そして流動的な学校生活を深い理解と信頼、協力をもってお支え下さった保護者の皆さんに、心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。

学園長 高橋和也